

日本の大学への進学のために

その2：書類や試験について

駿台国際教育センター チーフカウンセラー

井原 俊哉

北米で学んでいる高校生の皆さんは、今後の進路についてどのように考えていますか。アメリカの大学に進むことを考えている方、日本に戻って日本の大学への進学を考えている方、どちらにしようか迷っている方など様々かと思います。駿台国際教育センターは、日本に戻って大学受験をされる方々が学ぶ場所ですので、日本に戻る場合に意識しておいていただきたいことを述べていきます。

4月からの通学のための帰国生大学入試は、例年9月5日実施の早稲田大学から始まります。6月に卒業して、日本に戻るとすぐ7月になりまので、早稲田大学の入試まで2ヶ月しかないことになります。この期間中は出願準備（要項や案内の購入、願書・志望理由の記入、受験料の振込み、出願書類の発送など）を行わなければならないため、かなり忙しくなるものと思ってください。

この期間を少しでも楽にするために、前回に引き続き、12年生の段階で海外でできることをお伝えします。早め早めに動いておくことが、後のゆとりにつながります。

1) 早めにカウンセラーの先生に相談

帰国生入試では、いろいろと書類が必要になります。例えば「卒業証明書」「成績証明書」はすべての学校で必要ですし、一部の大学（東京大学・早稲田大学・慶應義塾大学など）では「推薦状」が必要になります。また、1年以上スキップした場合は、その証明書も必要になります。頼んではいけないものでもありませんし、日本の学校に提出するものの作成には慣れていないことも十分考えられますので、早めに10通程度頼んでおきましょう。私立大学の出願期間は、高校の夏休み期間になっているため、追加でもらうことや修正をしてもらうことが出来ないことが考えられますので、注意してください。つまり、分かりやすく依頼し、必要に応じて話し合うことが大切になります。また、出来あがったものに、ミスがあることもありますので、内容を確認することを忘れないようにしましょう。余分に頼んでおき1部あげて確認するようにしてください。上記の書類には、校長先生のサインか学校印をもらってください。その上で、封筒に入れてもらい、シールしてもらうとよいでしょう。

出願・試験の早い早稲田大学・慶應義塾大学では、5月中旬までには要項（日程や必要書類が記されています）、およ

び推薦状のフォーマットがサイトにアップロードされますから、それを見てからすぐにカウンセラーの先生に相談するとよいでしょう。用紙が定められている大学の場合は、できる限りそのフォーマットに記入してもらうようにしてください。

2) 統一試験を早めて受けておきましょう

統一試験（TOEFL・SAT）に関してはすべての学校で必要なのではないのですが、難関校（スコアを見るのは東京大学・慶應義塾大学など、提出が必要なのは早稲田大学（除く国際教養学部）など）では、必要とされることがあります。日本に戻ってからの受験だと一番早い時期の出願校に間に合わなくなりますので、可能なら5月ぐらいまでに納得のいくスコアを出しておきたいところです。計画を立てて受験しましょう。また、自分宛に送られてくるスコアレポートもかならず日本に持ってきてください。実施団体から直送できない大学もありますので、その場合自分でスコアを持って行き、大学の入試担当者に確認してもらうということになります。

ACTは受理してくれる大学が少ないので、可能ならばSATを受けておいてください。また、大抵の大学はReasoning Testでよいのですが、慶應義塾大学のようにSubject Testsを要求して来る大学も若干あります。ちなみに指定科目の条件が厳しい慶應義塾大学の場合、経済・商学部は数学2が必要、法学部は日本語が不可、理工学部は数学2・物理・化学が必要になります。なお、数学1と数学2を受けている場合は1科目扱い、生物/Bと生物/Eを受けている場合も1科目扱いとなりますので注意してください。Subject Testsは実施回によっては受けられない科目がありますので、日程と受験可能科目について事前にチェックしておきましょう。